

令和元年6月26日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01924

研究課題名(和文)女性の就業率上昇に向けた健康に働ける社会づくりのための実証研究

研究課題名(英文) Research on female workforce and their health especially among child-rearing generation

研究代表者

井上 まり子 (Inoue, Mariko)

帝京大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：20508048

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間を通じて、厚生労働省の統計の目的外利用申請を行い個票分析を進めた。21世紀成年者縦断調査では、20～30代の若年層を対象に、性別による雇用形態の選択と心理的ストレスの状況を10年追跡したコホート研究として分析した。

特に女性はライフコースのパターン別に分析を行い、結婚を機に仕事をやめた者と結婚後も働き続けた者の健康に関する比較分析を行った。その結果、正規雇用を継続した者と比べ、フルタイム以外の非正規雇用継続群で抑うつ症状を抱えることが示された。非正規雇用継続群は主婦になった者と比べても不調を示し、女性の活躍が期待される中、どのような働き方でも健康に働く支えの必要性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究の学術的意義は、若年労働者の雇用について様々なライフコース分類を行い、それぞれの健康(特にメンタルヘルス)に関する分析を行ったことである。特に女性では正規雇用あるいは非正規雇用を継続した人、主婦になった人などに分けて健康状況を明らかにしたことに意義があると考えられる。結果として、女性ではパートタイムで継続的に非正規雇用で働く者のメンタルヘルスが低調であることが示された。これには単身親世帯や、低い賃金で自分の家計を支える単身労働者が含まれる可能性があり、働いても健康が損なわれやすい女性の状況を示せた。女性の就労率は高まる一方、非正規雇用が多い日本で、より健康に働ける環境づくりを提案したい。

研究成果の概要(英文)：By use of the targeted population (aged 20-30 years) in the Longitudinal Survey of Adults in the 21st Century, we were able to analyze mental health according to life course pattern in both men and women. The life course patterns over the 10-year period were categorized into several types.

One of the main findings of our analysis was that workers engaged in non-regular work had lower mental health compared to permanent workers or housewives among the part-time workers. Therefore, not all working women could maintain their mental health equally and we could not find any "healthy worker effects" among non-regular part-time Japanese workers. Women are encouraged to work nowadays and the percentage of working women has increased in Japan. However, women tended to be engaged as part-time workers with non-regular employment. Japanese society in which women are supposed to work needs to provide support for the maintenance of women's mental health regardless of the type of employment.

研究分野：公衆衛生

キーワード：社会疫学 雇用形態多様化 ワーク・ライフ・バランス 産業衛生 働き方改革 女性の就労 女性の活躍推進

## 1. 研究開始当初の背景

日本の女性の就業率を世代別に示すと M 字曲線を描く。そして働く女性は非正規雇用が主流であり、全女性労働者の 56% が非正規雇用労働者である (労働力調査 2014 年)。過去の研究から社会進出支援が未成熟な日本では働く女性が健康ではないという世界でも特異な状況が示された。今後、就業率の M 字曲線解消を目指すためには、女性労働者が出産や育児といったライフイベントによって労働継続を妨げられず、雇用形態を問わずに健康を維持して働ける社会制度設計が必須である。

しかし、その議論には科学的検証が十分なされていないとは言い難い。そこで本研究は全国的調査を用いて 労働の有無 雇用形態 世代別に女性の就労と健康を妨げる要因を分析し、女性が健康に働ける社会づくりに資することを目的とした。

## 2. 研究の目的

本研究は 20 代 ~ 60 代の生産年齢人口の女性を対象とし、5 世代の女性の健康度を 労働の有無、婚姻の有無、育児の有無、雇用形態に着目して分析する。多忙と想定される既婚の育児をしながら正規雇用で働く女性を基準として他の分類の女性労働者と比較した。対照のために同世代の同じ分類の男性についても分析を行った。性別はもとより、上記 ~ の分類をして女性の世代ごとのシナリオ別に健康度を分析して労働者の健康度とそれを阻む要因を見出す。

## 3. 研究の方法

特に公的統計である厚生労働省の統計の目的外利用申請による個票を用い、10 年間のコホート研究を実施した。ベースライン児の上記 ~ の状況を調べて追跡した。それぞれを女性の多様なライフコース分類を行い各々の場合の健康状況を比較した。

### (1) 厚生労働省の国民生活基礎調査に関する分析 (1986 ~ 2013 年までの 10 回分)

対象となる世代の女性 (20 ~ 60 代の 10 歳階級) において 労働の有無、婚姻の有無、中学生未満の育児の有無、雇用形態を分類し、それぞれの場合において結婚して育児中の正規雇用者を基準として、働く女性の健康度を測定した。

健康指標には、A. 健康障害の発生状況として 主観的健康観、自覚症状、うつ・不安、B. 労働者の保護制度として 医療機関受診の有無、健康保険等社会保障の有無で測定する。特に交絡要因となりうる経済状況や教育水準についても調整のうえ分析した。

### (2) 厚生労働省の 21 世紀成年者縦断調査を用いた育児世代女性の 10 年間コホート分析

厚生労働省では 2002 年に 20 - 34 歳であった成人を対象に縦断調査を開始し、10 年を迎えて終了した。対象者が出産と育児を経験する時期であることからこのコホートに着目した。

まず 労働の有無、婚姻の有無、育児の有無、雇用形態で分けて 20 - 30 代のいかなる特徴が就労を阻害するのかについて検証した。

## 4. 研究成果

研究期間を通じて、厚生労働省の統計の目的外利用申請を行い、個票分析を進めた。特に、21 世紀成年者縦断調査では、20 ~ 30 代の若年層を対象に、性別による雇用形態の選択と心理的ストレスの状況を 10 年追跡したコホート研究として分析した。

男女共にライフコースのパターン別に分析を行い、結婚を機に仕事をやめた者と結婚後も働き続けた者の健康に関する比較分析を行った。その結果、女性では正規雇用を継続した者と比べ、フルタイム以外の非正規雇用継続群で抑うつ症状を抱えることが示された。非正規雇用継続群は主婦になった者と比べても不調を示し、女性の活躍が期待される中、どのような働き方でも健康に働く支えの必要性を示した。

研究の学術的意義は、若年労働者の雇用について様々なライフコース分類を行い、それぞれの健康 (特にメンタルヘルス) に関する分析を行ったことである。特に女性では正規雇用あるいは非正規雇用を継続した人、主婦になった人などに分けて健康状況を明らかにしたことに意義があると考えられる。結果として、女性ではパートタイムで継続的に非正規雇用で働く者のメンタルヘルスが低調であることが示された。これには単身親世帯や、低い賃金で自分の家計を支える単身労働者が含まれる可能性があり、働いても健康が損なわれやすい女性の状況を示せた。女性の就労率は高まる一方、非正規雇用が多い日本で、どのような就労形態の女性の健康が損なわれやすいのかを検証することができた。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Inoue M, Nishikitani M, Tsurugano S. Female non-regular workers in Japan: their current status and health. *Ind Health* 2016; 54: 521-527.

**Nishikitani M, Nakao M, Tsurugano S, Inoue M, Yano E.**

**Relationship between menstruation status and work conditions in Japan.**

**BioPsychoSocial Medicine. 11: 26, 2017 (Oct)**

井上まり子

特集 働き方改革. 非正規雇用労働者と新しい働き方からみた期待と課題.  
健康開発. **23(3): 36-40, 2019**

錦谷まりこ, 井上まり子, 鶴ヶ野しのぶ.

学研究からの少子化対策 - 非正規雇用と結婚、妊娠・出産、育児.  
日本衛生学雑誌. **73(2): 215-224, 2018**

井上まり子.

健康から考える非正規雇用の課題と対策 第 7 回 非正規雇用の多様性 : 壮年期の労働者の  
現状と健康.  
産業衛生学雑誌. **57:318-321, 2015**

井上まり子.

雇用形態が多様化する社会における女性労働者のストレス.  
産業ストレス研究. **22:211-216, 2015**

〔学会発表〕(計 14 件)

錦谷まりこ, 井上まり子, 鶴ヶ野しのぶ, 矢野栄二.

不安定就労世帯 健康と幸福度.  
第 89 回日本衛生学会学術総会, 名古屋, 2 月, 2019.

井上まり子, 錦谷まりこ, 鶴ヶ野しのぶ, 矢野栄二.

若年女性の雇用形態変化・退職と心理的ストレスとの関連.  
第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島, 10 月, 2018.

井上まり子.

世界における非正規雇用労働の動向. 国際労働機関 (ILO) の『世界の非正規雇用』から海外事  
情を読み解こう.  
第 91 回日本産業衛生学会, 非正規雇用研究会シンポジウム, 熊本, 5 月, 2018.

井上まり子, 錦谷まりこ, 鶴ヶ野しのぶ, 矢野栄二.

若年労働者の雇用形態変化と心理的ストレスとの関連 - 10 年間のコホート研究から .  
第 91 回日本産業衛生学会, 熊本, 5 月, 2018.

井上まり子.

International Labour Organization (ILO) における非正規雇用に関する対策の動向.  
第 14 回日本産業衛生学会非正規雇用研究会, 東京, 1 月, 2018.

鶴ヶ野しのぶ, 錦谷まりこ, 井上まり子, 福田吉治, 矢野栄二.

大学非正規教員の健康 ~ 非常勤講師健康調査から ~  
第 90 回日本産業衛生学会, 東京, 5 月, 2017

錦谷まりこ, 有吉美恵, 鶴ヶ野しのぶ, 井上まり子, 福田吉治, 矢野栄二

非正規雇用者の健康状態と職業特徴: 国民生活基礎調査より.

第 90 回日本産業衛生学会，東京，5 月，2017

鶴ヶ野しのぶ，錦谷まりこ，井上まり子，福田吉治，矢野栄二。  
大学非正規教員の就労と健康 非常勤講師健康調査から  
第 87 回日本衛生学会学術総会，宮崎，3 月，2017.

井上まり子.

シンポジウム 7 .働く女性のメンタルヘルス問題への対応 - 現場で役立つスキル・ノウハウを巡って - . 雇用形態多様化と女性のストレス  
第 24 回日本産業ストレス学会，東京，11 月，2016

Mariko Inoue

Advancing women in public health: the Japanese experience .  
Advancing Women in Public Health & Medicine Symposium , 15 September , 2017 , Boston (USA).

鶴ヶ野しのぶ，錦谷まりこ，井上まり子，矢野栄二。  
工学系大学の女性研究者の現状と産業保健上の課題。  
第 88 回日本産業衛生学会，大阪，5 月，2015

錦谷まりこ，井上まり子，鶴ヶ野しのぶ，矢野栄二。  
我が国における職業と肥満の関係について。  
第 88 回日本産業衛生学会，大阪，5 月，2015

井上まり子.

産業衛生と社会は非正規雇用労働者の健康をいかにして守るか。  
第 88 回日本産業衛生学会，大阪，5 月，2015

井上まり子.

研究の現状から探る非正規雇用と健康の関連。  
第 29 回日本医学会総会 2015 関西，京都，4 月，2015.

〔図書〕(計 2 件)

丸山総一郎 編『働く女性のストレスとメンタルヘルスケア』創元社，大阪，2017 年 4 月 井上  
まり子 第 1 部 6 . 雇用形態多様化と働く女性のストレス

児玉聡，井上まり子.

第 12 章 健康格差 . 入門医療倫理 III ・公衆衛生倫理学。  
勁草書房 . 2015 年 12 月 .

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：錦谷まりこ

ローマ字氏名：**Nishikitani, Mariko**

所属研究機関名：九州大学

部局名：持続可能な社会のための決断科学センター

職名：准教授

研究者番号（8桁）：**40327333**

研究分担者氏名：鶴ヶ野しのぶ

ローマ字氏名：**Tsurugano, Shinobu**

所属研究機関名：電気通信大学

部局名：保健管理センター

職名：准教授

研究者番号（8桁）：**10359630**

研究分担者氏名：矢野栄二

ローマ字氏名：**Yano, Eiji**

所属研究機関名：帝京大学

部局名：大学院公衆衛生学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：**50114690**

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。